

男女がともに活躍できる社会へ



内閣府
男女共同
参画局



女性に対する暴力根絶
のためのシンボルマーク

「男女間における暴力に関する調査」(令和5年度) 調査結果のポイント

男女間における暴力に関する調査（令和5年度）について

【調査の概要】

- 男女間の取り巻く環境の変化に応じた被害傾向の変化等に適切に対応するため、男女間の暴力の実態を把握し、その対策の推進に資することを目的として、平成11年度以降、3年に1回実施している統計法に基づく一般統計調査。
- 本調査では、配偶者からの暴力の被害経験、交際相手からの暴力の被害経験、執拗なつきまとい等の被害経験、不同意性交等をされた被害経験などを調査し、調査結果はHP等で公開。

【令和5年度調査について】

<調査対象>

- 全国18歳以上59歳以下の男女5,000人
- ※ 無作為抽出
- ※ 年齢は令和5年11月30日現在

<調査期間>

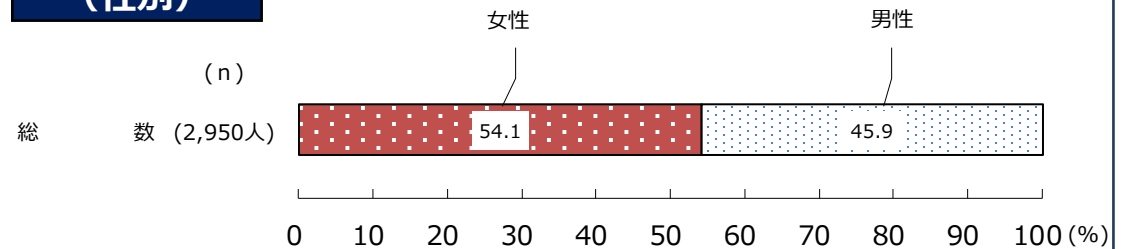
- 令和5年11月～12月

<回収結果>

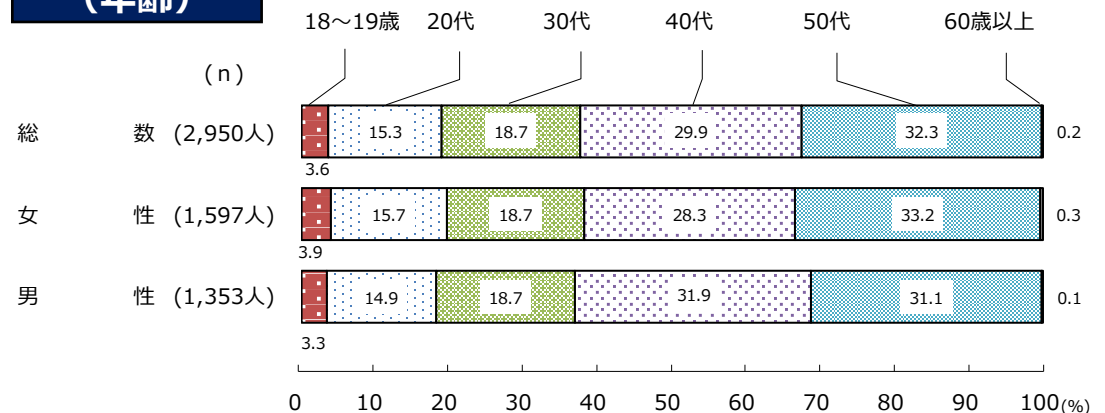
- 2,950人（59.0%）
- 女性：1,597人、男性：1,353人

【回答者の主な属性】

（性別）



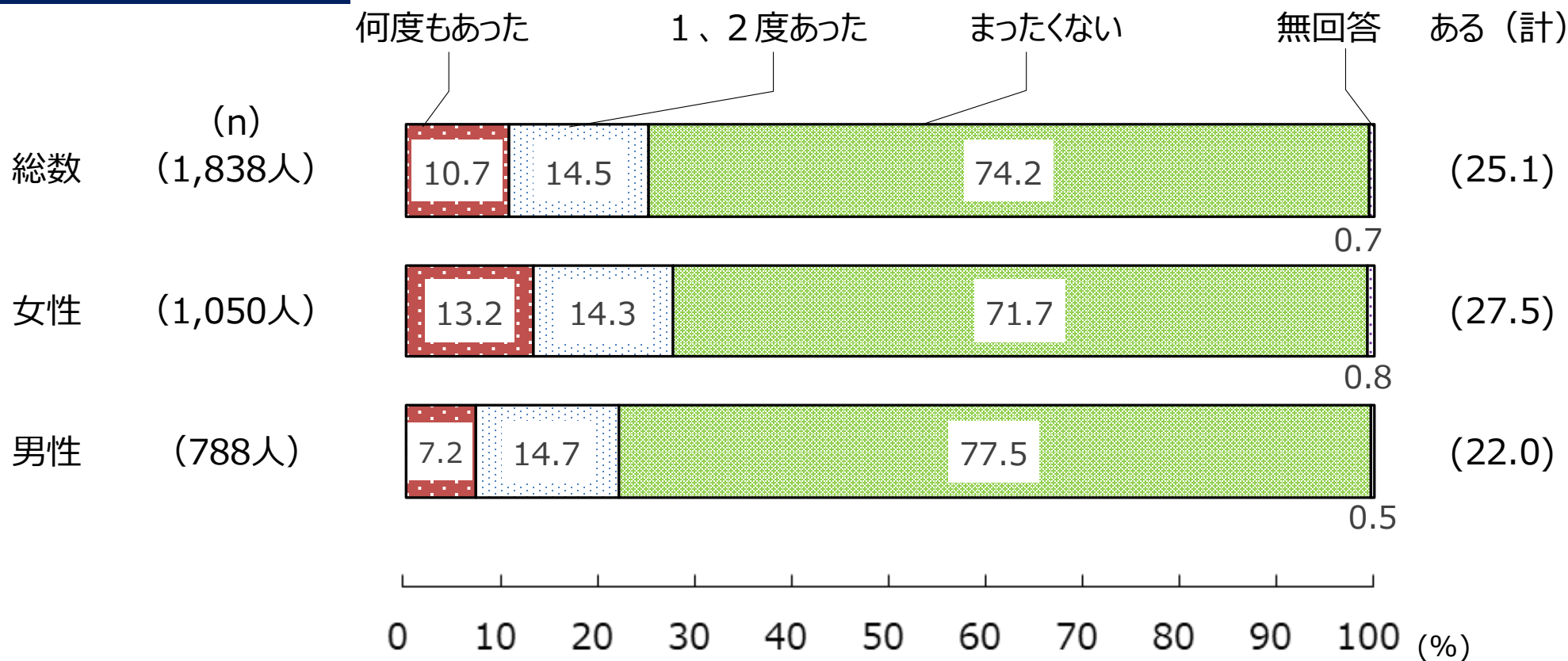
（年齢）



【配偶者からの暴力の被害経験（被害類型別）】

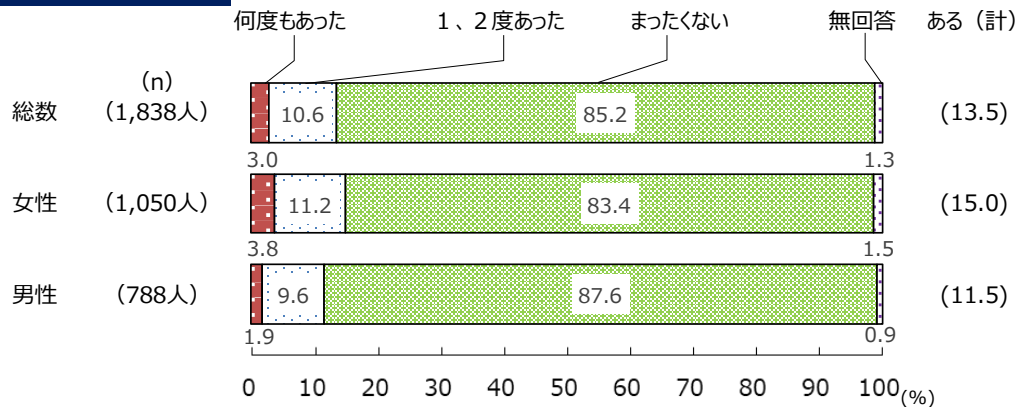
- 結婚したことのある人の25.1%は配偶者から暴力を受けたことがある。性別で見ると、女性の27.5%、男性の22.0%は、配偶者から被害を受けたことがあり、女性の13.2%、男性の7.2%は何度も受けている。

(まとめ)

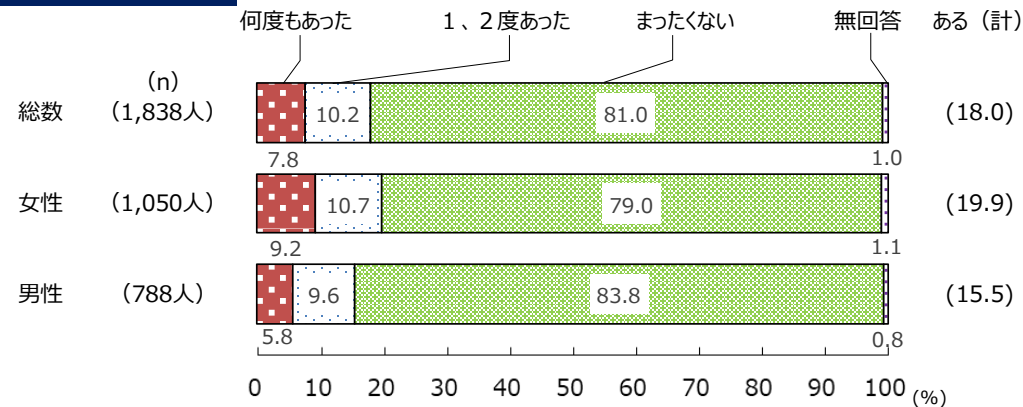


【被害類型ごとの被害経験】

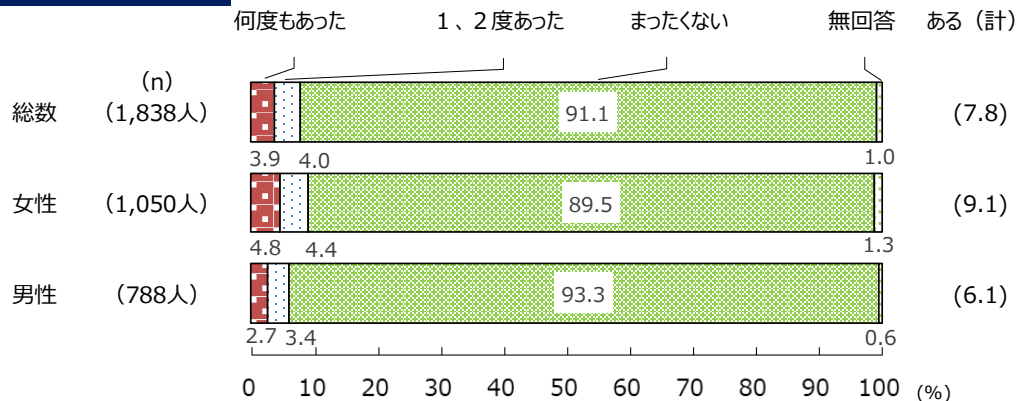
（身体的暴行）



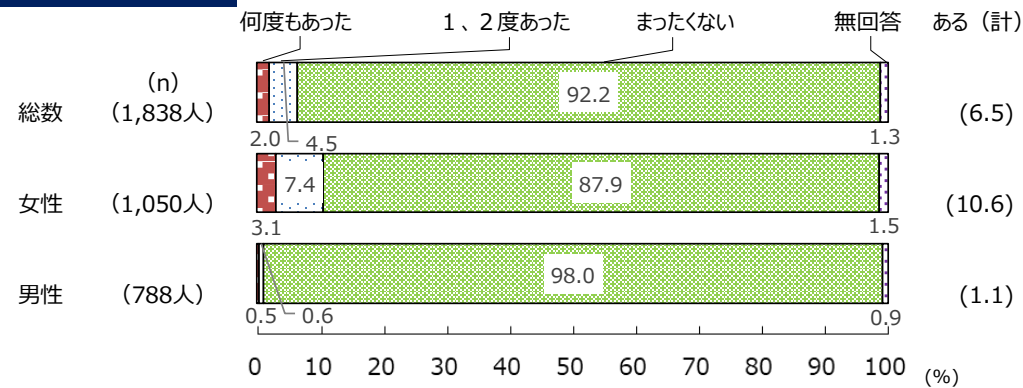
（心理的攻撃）



（経済的圧迫）

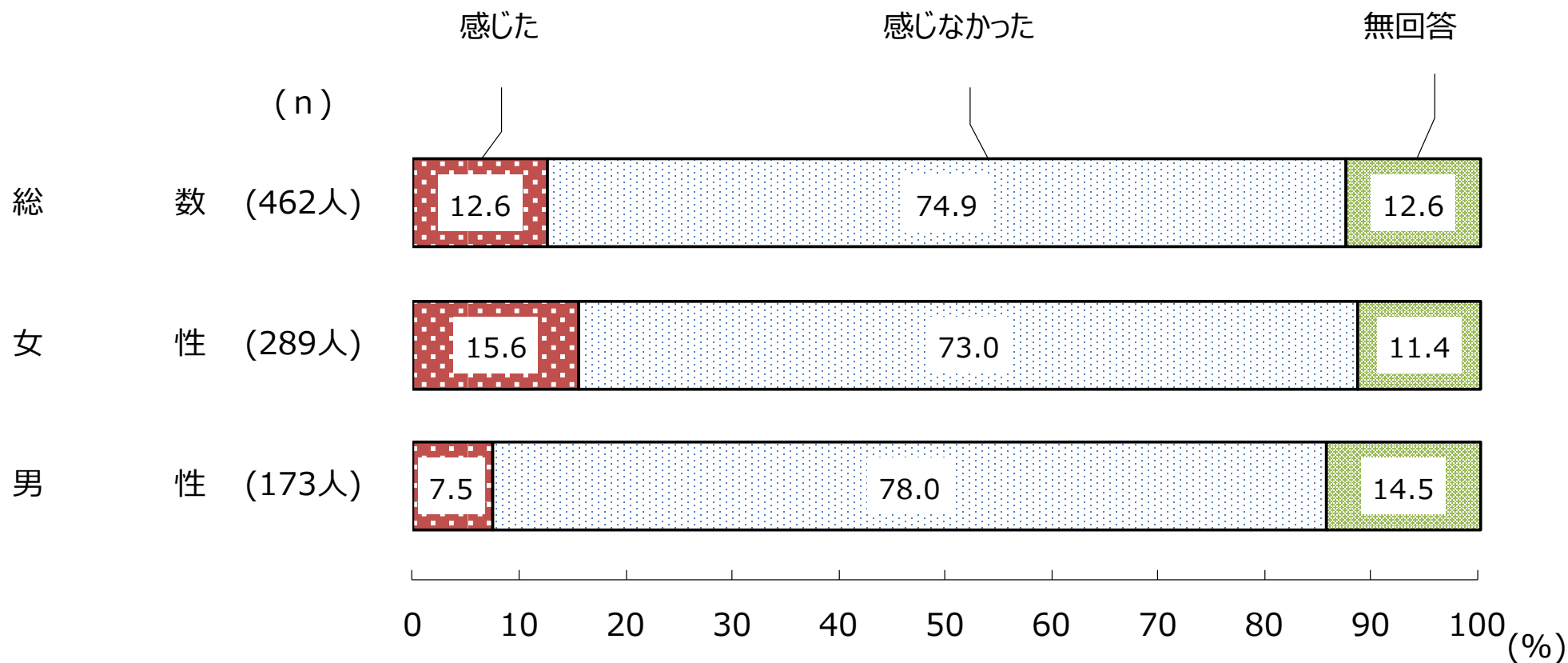


（性的強要）



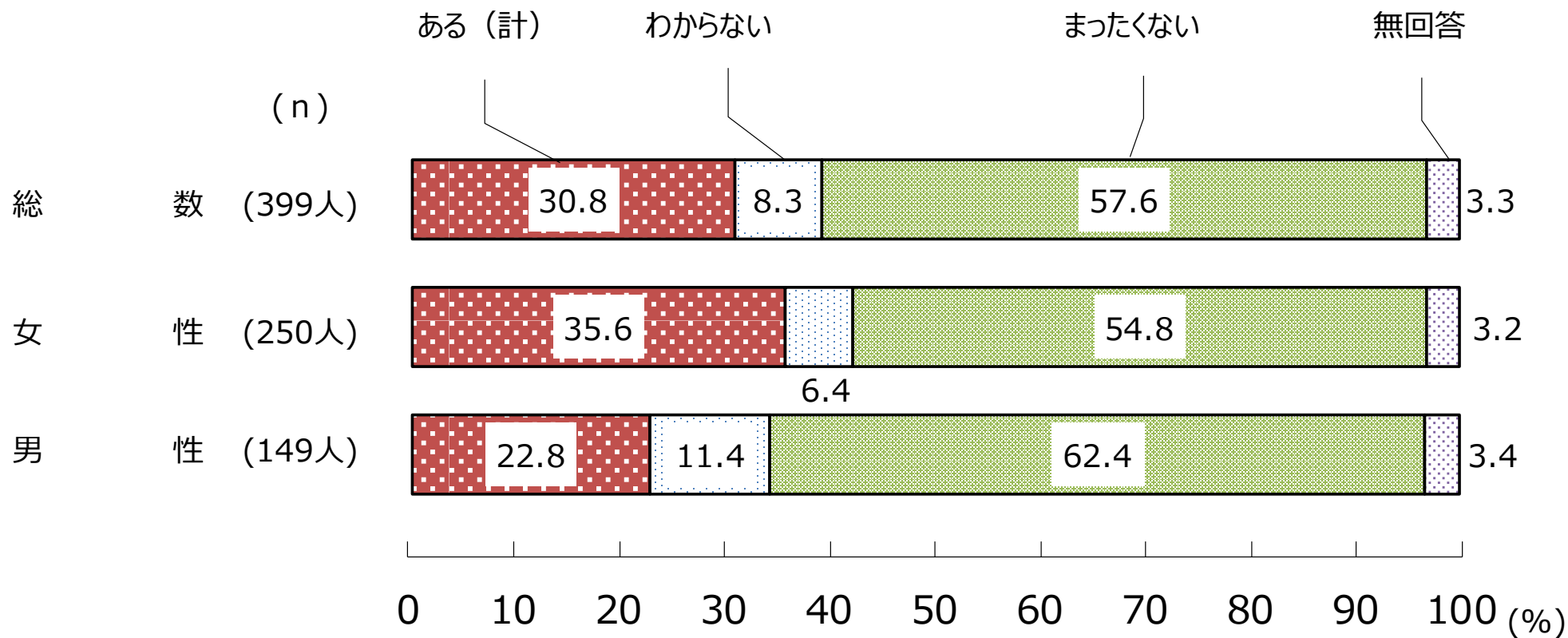
【命の危険を感じた経験】

○ 被害を受けた人の12.6%、性別で見ると女性の15.6%、男性の7.5%は命の危険を感じた経験がある。



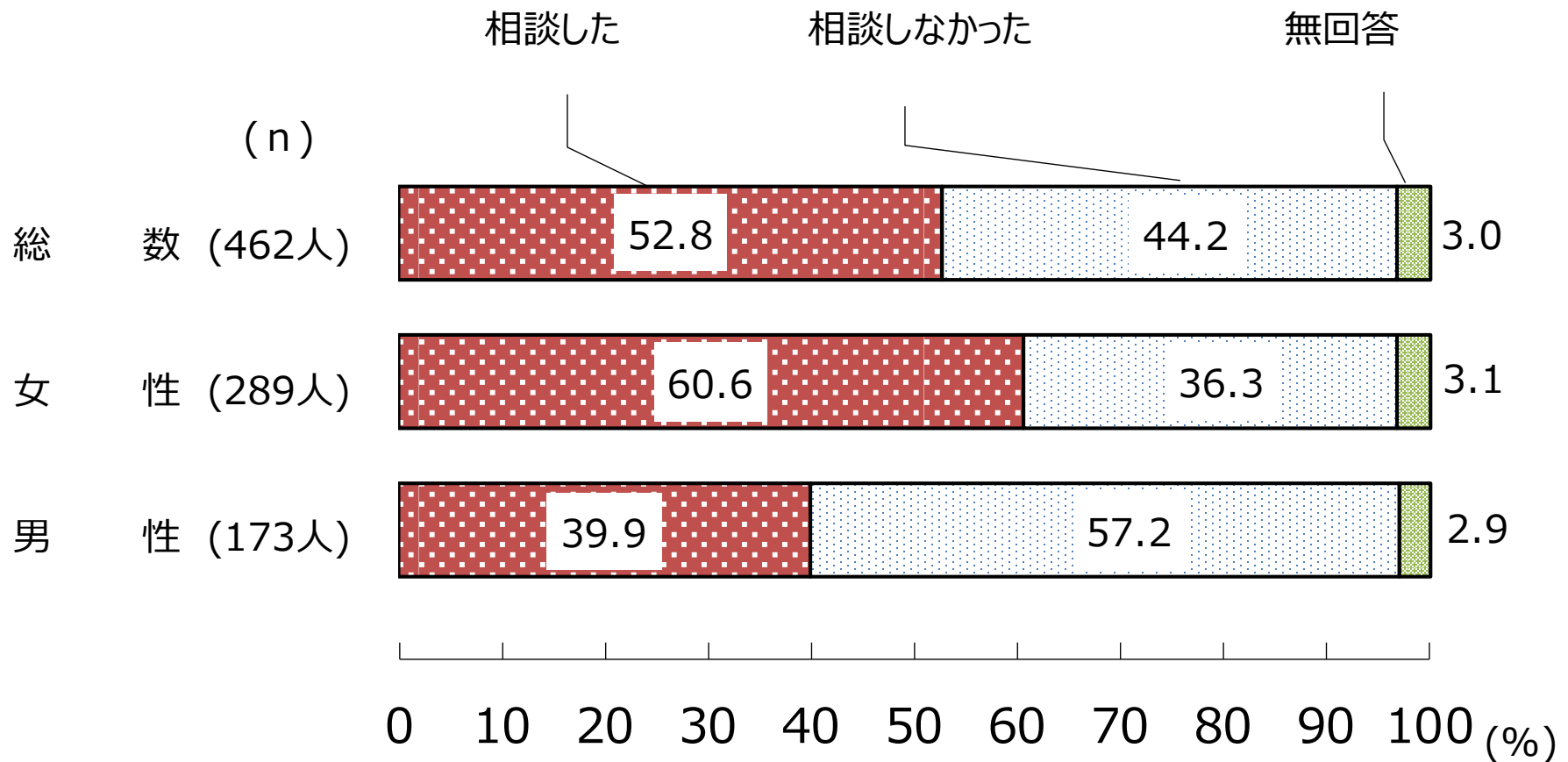
【配偶者から子供への被害経験】

○ 被害を受けた人のうち、子供がいる人の30.8%、性別で見ると女性の35.6%、男性の22.8%は、配偶者から子供への被害もみられる。



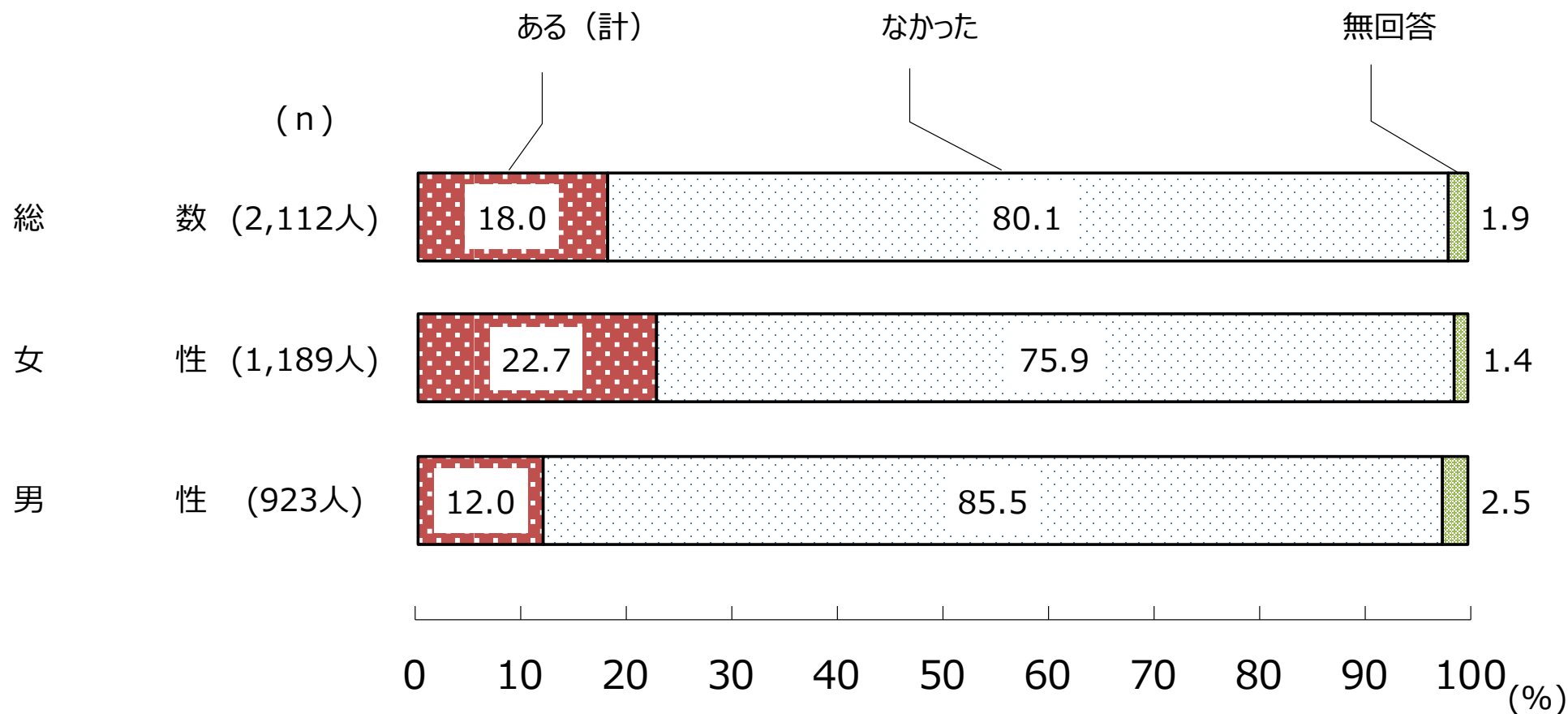
【相談経験】

○ 被害を受けた人の44.2%、性別で見ると女性の36.3%、男性の57.2%はどこにも相談していない。



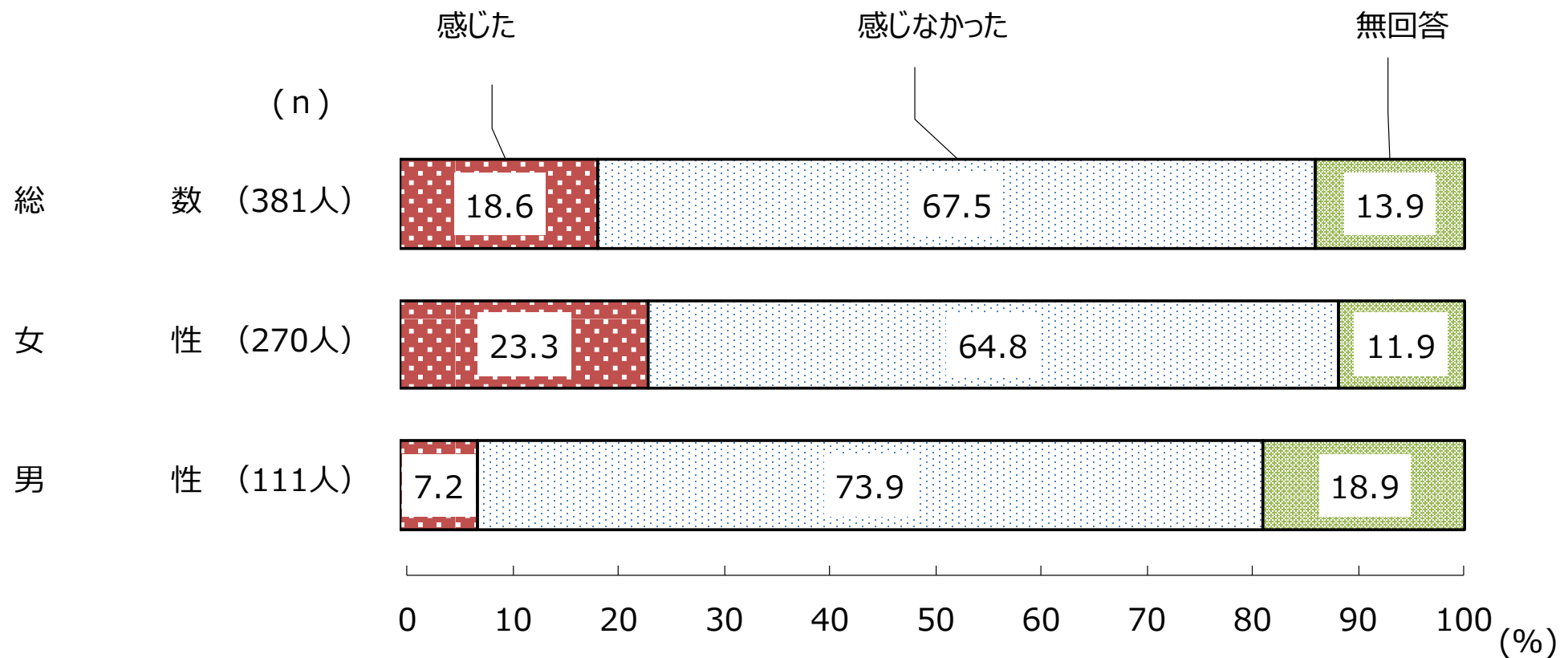
【交際相手からの暴力の被害経験】

- 交際経験がある人の18.0%、性別で見ると女性の22.7%、男性の12.0%は交際相手から被害を受けたことがある。



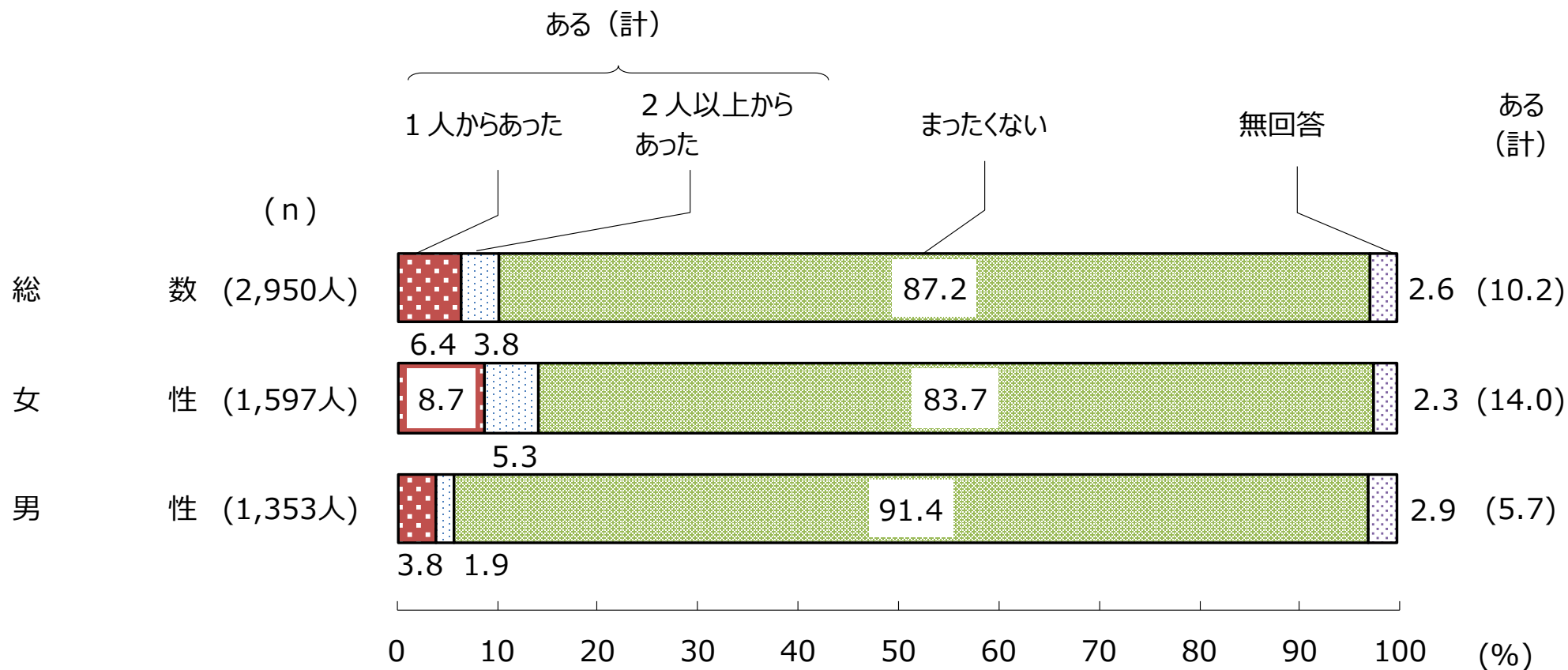
【命の危険を感じた経験】

○ 被害を受けた人の18.6%、性別で見ると女性の23.3%、男性の7.2%は命の危険を感じた経験がある。



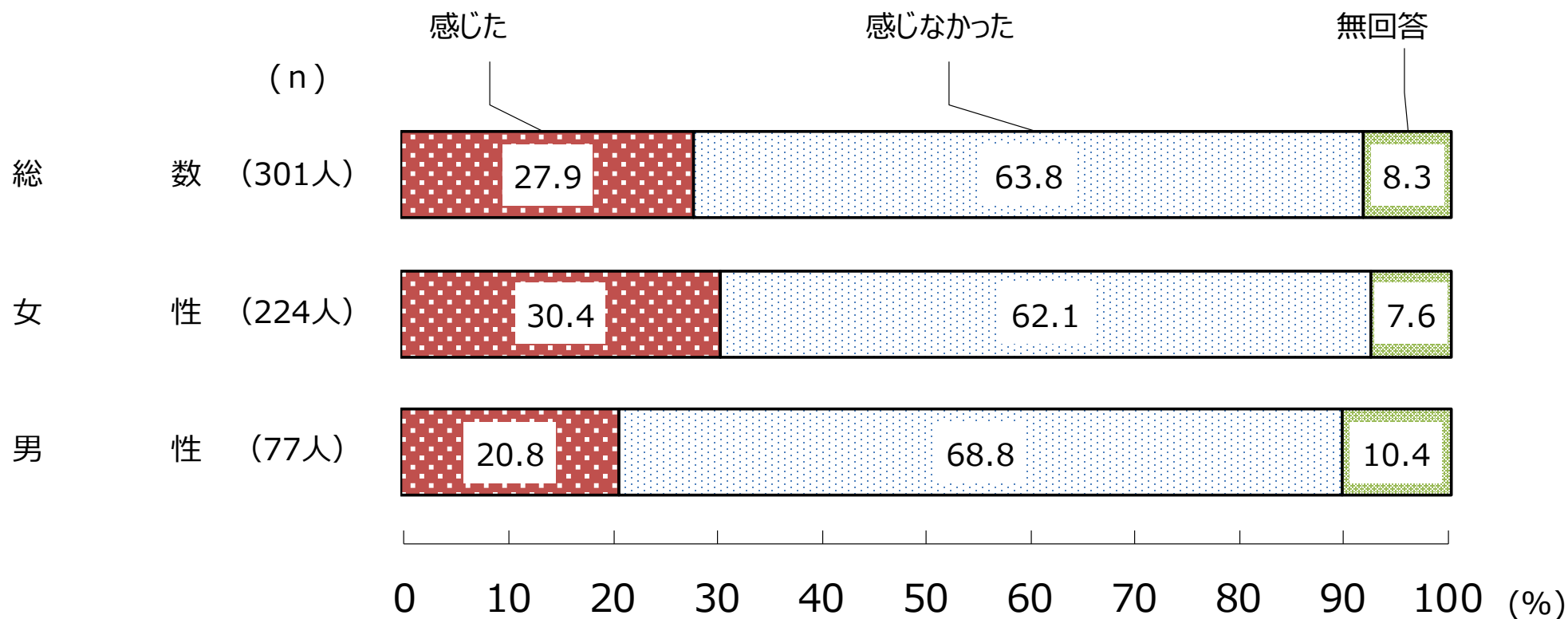
【執拗なつきまとい等の被害経験】

- 全体の10.2%、性別で見ると女性の14.0%、男性の5.7%は特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害を受けたことがある。



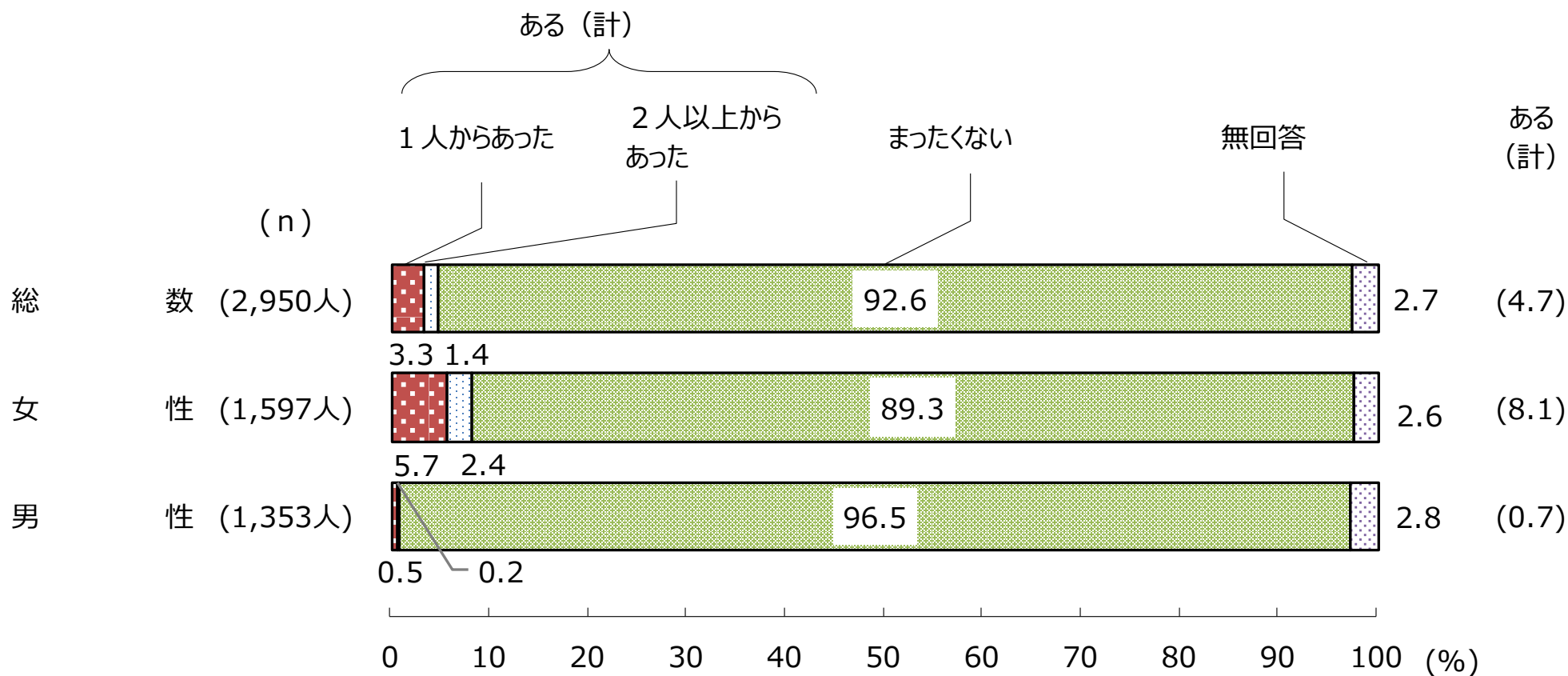
【命の危険を感じた経験】

○ 被害を受けた人の27.9%、性別で見ると女性の30.4%、男性の20.8%は命の危険を感じた経験がある。



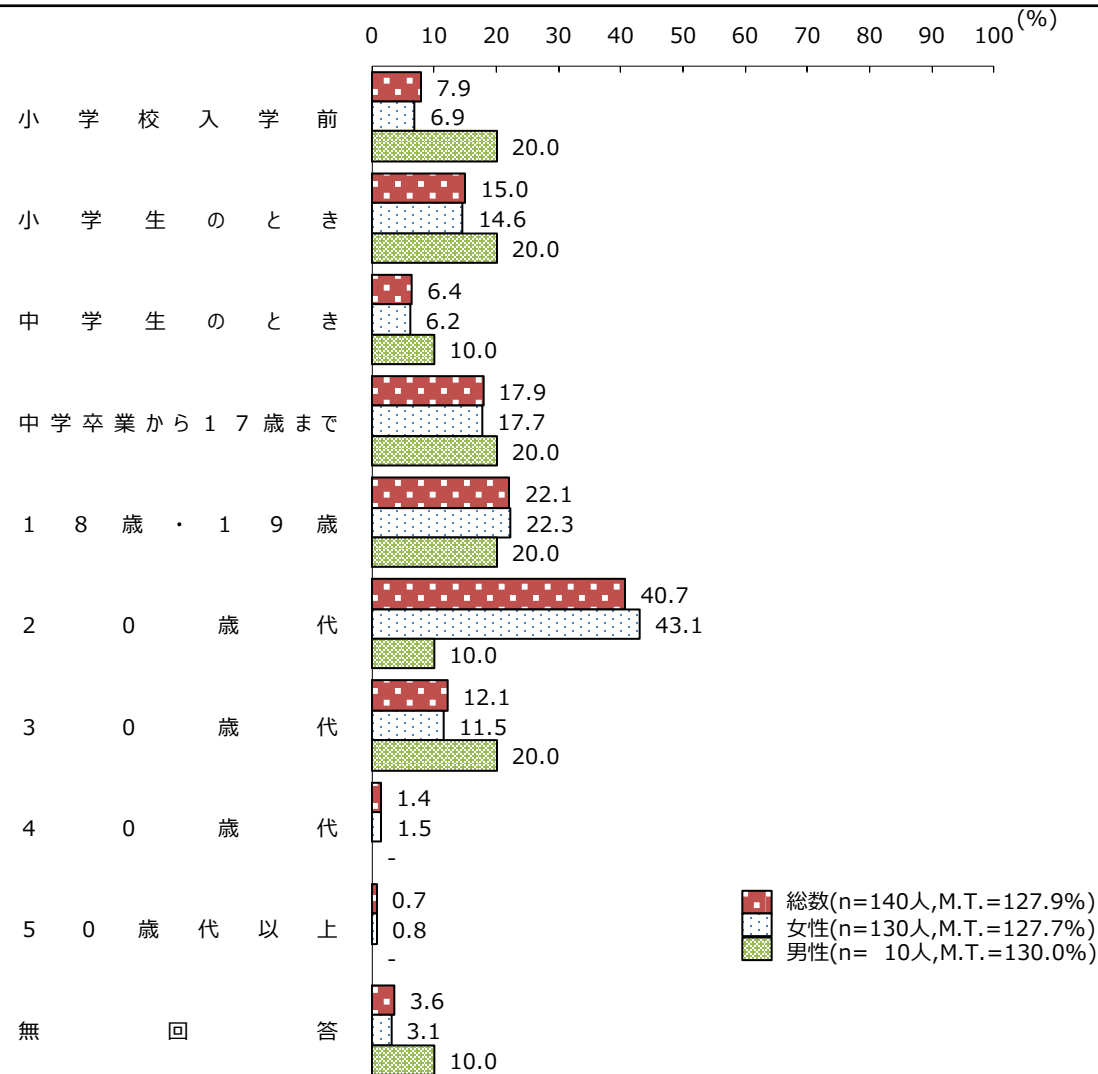
【不同意性交等の被害経験】

- 全体の4.7%、性別で見ると女性の8.1%、男性の0.7%は不同意性交等の被害にあったことがある。



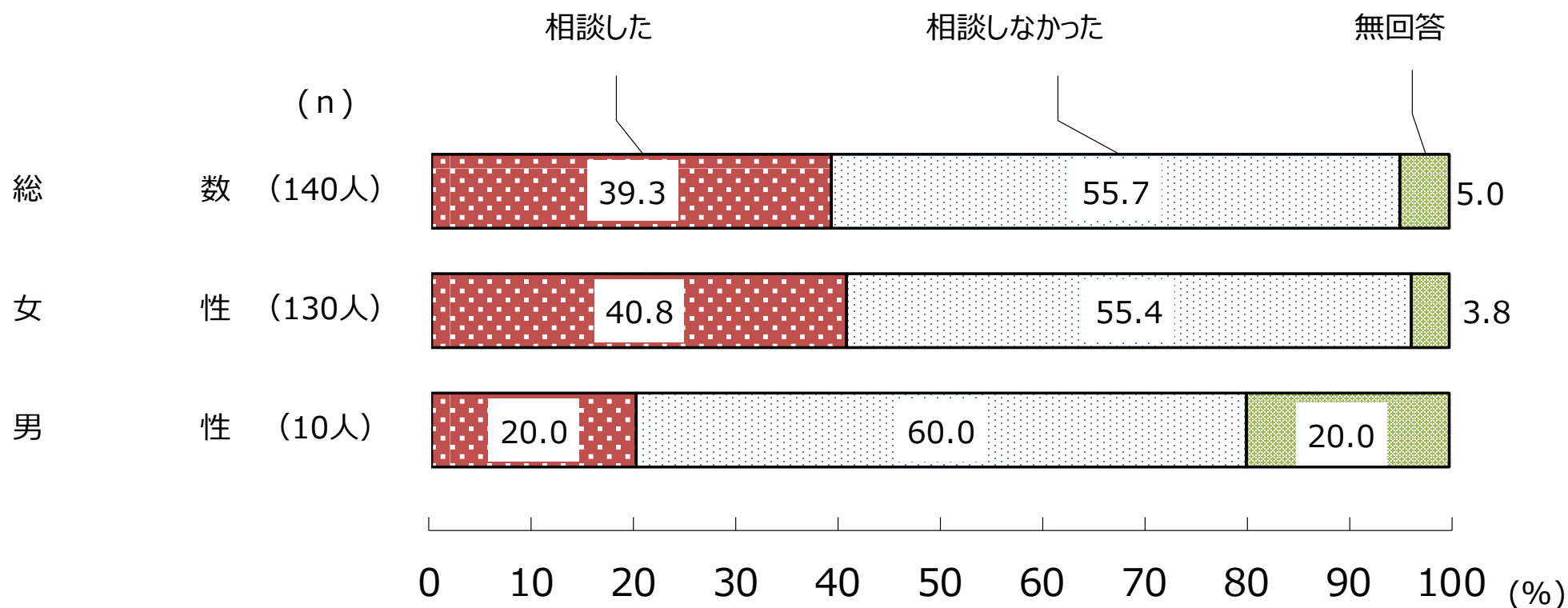
【被害にあった時期（複数回答）】

- 被害にあった時期は、「20歳代」が約4割、「18歳・19歳」と「中学卒業から17歳まで」が約2割、「小学生のとき」も1割以上。



【相談経験】

○ 被害を受けた人の55.7%はどこにも相談していない。



【被害にあってから相談までの期間（複数回答）】

- 被害にあってから相談までの期間は、「4日～1カ月未満」が約3割、「翌日～3日」、「10年以上」が約2割。

